

冷泉為村和歌御教誨

W 皇
911.104
R
0

62256

引秋のあゝそひにのりきとせ乃すこみめて今つらき
とにーあゝ秋の時よはききくはてぬくしつらき
つらきまん け花のよとてさて秋と誰のいそむ
引く日暮ーふらふらそい川あもをさききれ
さきと何ぞよあくれく病者け文好さかーみあゝ秋の
あゝあゝあゝさうさむい恋をらんあていさうー
あのをとれか乃く病の夕ら浅草け霜のぬきさうさ
けらさあ月とあゝさむい秋あり 花の時月れあゝさ
いけさうさてぼとらり教は海客のあくらあたるの向
みけ指り白をせきさきは月乃ひらりとさんさうさえぬさ

こそか母や せひみさきてわささうーもむ(めり)今
あゝ人いってわんや 夕とほほる法輪け種は花乃あ
りさきそてかへれといさきく程さうさあゝさき 引あゝ
又ささうさぬ せのさあゝさうさや けはあゝいさぬきい
あゝさきぬさむけさうさあゝさうさのすらさたるさ影あて
秋さまんとかさうさひーよさきあゝさうささうさ中く風
情さうーれいゆるんさあゝさきぬさくささけけあ
てよこのあゝさきあゝさきあゝさきあゝさきあゝさきあゝ
さうさ常ささきあゝさきあゝさきあゝさきあゝさきあゝ
さきさうさ江乃流さみつれさささうさ江の松あゝさ

まぢりし海に影さかちよ花のしけし海をわきし川きともあま
んしころもちと山梅をぬよまこつすや音乃面影をを川
かよふけ夕鞠志をささう風より枝を花とこそ阿志
まをにみよあけこそきてを乃日のかうりに家の花をかやく
かまむ日の影すすもる山梅あうり花のなまものをけし
後梅えさし柳のちるやせまちこのころ梅の香とさあわん
ころねくもあうばとちかくわねやい香をぬ花乃を風
なわうて白あやしい思着うにこつすく音乃の花よこを川
たつともうやあわ申くにええすく音乃のなまとせ（あ）
白をのしえまにえの梅をぬはくしとこちも及もに

あまふもしちうこ川むしし六ふだく（く）筆つ音のあう香
きねえぬ所母ととて隠おも花よ折らう枝乃をはめ
ぬまく程さりの老の枝と枝も風吹うぬ隠もいとをに
ぬのなまこぬああのらあうしと志ほし音のう川あわがし
下さめり指入雲のし流くこはくはあはあ花の影川あ
ぬ枝こむうあはとらうさ危さう何り阿きの月をよあて
あうこ切うぬら梅はのしとわく阿光り花うくや家
花あ家あ向の梅をささばうすこああさ音の影うけ
うちむふんとちうぬ花さうりなりさ日阿花ああしは
み跡ぬ入り乃あ山さうしやさ（花）うりすむり（ま）

山本姓を初り人集居せられしとて ちかしくはおもひ入おの勢
月とそく様の木ひ急居して花もかかき言れどもく
阿まさけく木末のさくくけあむる花乃ありけきとこい
まきこーき歌わて折えの花揺籠よいく日のちりともん
誰もあのをよひつる多車さくくもとのまきにさあふ
折りあちちく流家の神又花あくいく丹花のうつり香
ハまき一重かき折るふかうきさこい文をありはさり父とんせり
そめくつるむらさかかきくぬとまきささおたのたきくはたゆん
ふつてーとちまきくえゆむの上になんせらまろの山くせ
とくちくちりぬる場も流生山ういりあ花又まきられり

初る急とまきくちりく郭公な例はなり日さくくしてま
たはゆ入山ほくくさく木くきて花流ぬ花又まきやいそぬ
山りていさく人阿まきやほくまに折のをまきとさく初きも
ほくさくぬあふあて岡もくは我とこりになうと記書りも
人集の勢とまきはまき子親まきとさくたともまきかひぬる
かきまき古年まきかきかき初まきまき初まきあつしとさ
初えさくくまき初まき初まき初まき初まき初まき初まき
保心まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
月うすまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
時多切まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

交くたうく急とせさうー石如帰故と居つとせ名ひ控を
保少と奇奇とあよとくせー一声いそと里とくも安そわらぬ
はきぬくもまされくくほとあす志のひかり今の一と急
いく声し加そあ母ととたなりやよとあとる初母とさほ
さ乃これと里あねとくつきてと山母とさす人とわらうん
い川とわくわくはく名のさ部とあひい声と教名よそく
うらみしと名れど一夢もかきりあまはほとさす^{キリ}支にきりり
そことぬく呼吸と一と急乃けあハ世のとちこのあ
子親待りかむあ枝とて新をいさぬくあけれの夢
い法進まつ身とらんをちこれ教とるわく山ほとさほ

父はくのほらうまさけを子親きさけの母月よぬく一急
えぬくすよま記も母と夕附あわとすうてたうくはる
待とぬむりや城や神一杜給ぬあまのり^{キリ}小あまの一急
たほつらぬうととすう一歌とさけしとあまのうつ
ほとあす控あわさき一声城はあすを後にあわとて
ありうとあそくそつわとくまをまれの産さあ境の一急
ぬらぬあさうとあつといそくらむ里とあて急のうとたりぬ
をぬとてさういさう一母とあに五月の末のまれくのあ
わとさほ都とせうもそ谷のまのあにハをそらた何ああ
一と急もあもひうけぬ城とわかのほらこのらねあほとあに

昔歌りやても何くぬ名跡あきや又母一何ふ葉の月れ明る
十ふおれ月い名は何ふ晴もあもさ乃こととくぬ光とそり
昔ちいそたらををうふこすのこにやかけうつる月のおしほ
月清しやうとむひの田舎してまつとこかたに方のさうつさ
あうして清へさことの跡跡のと夜い志い一月とそくとも
夜いふけぬさのほりかえさるひも山をうつれ月とそきさ
いろすむそく志いあくさやけさも志砂の月れ在明のうけ
名少一何ふ夜も九月のナリ何まりみちぬお結は結いつふ式
唐土の好まはあし一結津洲の好い夜のち少一何ふ月
何秋の末葉あよういる月が知 今秋おの浅茅生の記

昔ちそふあししのをちや雲あ後結いさこれるきさあ
の誓あきてみそれもまじ結村海ぬたり里まての雲は結いりり
孝に誠くあられと晴ぬうさきや山よりおれおけなうん
あのかれ名の日教もはゆりきて山よりさつぬおんま
あうりれされおの雲の何れをれく初お志ろくむしんの福
やうつむおおの峯れいつなむ清えええをむけこれお
い清よりと清えてやえん九章れ何言にれらる孝はを川
最後もろおあひくくありしてあけあまうりす雲の産
川あふはつこさあ松のそのまほく枝よのり結ゆさ
良のほしはゆるやくき起いつら結たもともさ結の

摩訶もいふほどなるも庭のめさきほけふるすにほりそひぬ
多礼竹のかきぬまあつくふるきれちりかたへれ風やそせりん
山ちりり里いらぬんみやこたあひうすなりほむ雪のけし
あははちりしちの卯面うりありたをりほりゆや淡くそれ
ほほむとみさうれちちおいてそきこたもかぬ物産はね風
こきも又免ほりすさみよこせきさうきほるをしををゆるさん
晴てしもあゆ雪やらふも程さねのまのむし澄のを
下解くまるとひちりしむ水の雲水かなく折のあき雪
なごりぬく晴あひりけよりかのむりりそをゆきあはしく
のちり日の光はえしけよりさむふお山程くとりほ

く程もつれみきりのゆきれよいけりうほり夕月の影
さわけさといほきしころん晴あぬのこまねき雪にさゆりけ
うほとれくきやね程のけあにぬさにならさ雪の下風
さあひあくぬちりしりさるちちあねさしゆまら山風のあ
ふきとほほほちぬ雪やまらちねあふりさぬのきとけあ
ぬすくほほあゆまらしほほほほほほほほほほほほほほほ
あくほりしほさちねりうぬとのほほほほほほほほほほほほ
何ちぬりうもほほほほほほほほほほほほほほほほほほほ
日ひきさぬ雪ありぬむすちちちとほほほほほほほほほほ
むしあはほほほほのゆきれりきにはほほほほほほほほほほ

もと川りのた福もく代の家極を能母 後をそりし記
堂ちるきんこけの神は後後あけ代にんき此記のころ風
はくつろ二夜あきくそ一花のふけをむめさ洞裏のそ
お好さいさおに打さき庭極うほりさ記のいつにもらん
みまわらうた由何さうねんへくい川あゆんみそねん
あつー飯のねさめいあつね郭を我もあつー子老のをほりよ
すうむいさめていさう一時多ふあよとさうそ清和の勢注あり
清和いづもの元とあ子記さうやういぬあつとむらん
時多しき清和は祈し座の御舞のまらういさちてやあく
あまり世はつれぬささしる也帰山ようへ記を時やすこさぬ

あまきこー秋もいつーり二十歴て二代の言井よう後月記
こせそこのうさ世のらまよ好もに名由あ月のかもりうちね
とろあもたきとあつて十かねはほさぬひよあとあつとさ
先代といて中く月あ隈あらん光あつさ方の打むつひほ
んあうは極もさうー月のあさえんつうのころ師てあつね
くら人の記も教さふ吾門り一きえせぬ及さえほりあ
ぬうくたもあ庭の訓にあつあの世であつあつとあつね
あけらほりあつとあつ位山あう代はむ例とあつて
あむあこのえしとあつあ人とあつあつとあつとあつとあ
花月のほりさうさうていほりとあつとあつとあつとあつとあ

とこりすとすむる夜のちか／＼て夜をいふものそ人よけりある
意海と川つらつら小車の日まゝ入くまふを浪もれ
こもをれを身とさかたに思ひえうたひいつちてはさか消ぬ
あゝこの、父母をむもあつとれみかれて意をてをむぬ
一そちれ意海も浪のかあ／＼とものち／＼は下ありせを
いやたつらめらた／＼てぬおれ上の光り／＼こくあわ／＼けき
代にかさひあつさやく／＼と後をよもぬ板舟の波さ／＼みも
あうはくもあう意の波川ちとのをちり／＼かけさうえさて
船あ／＼ぬりぬれ／＼とかけて後をよつら／＼意のつゆ
あう／＼とよけおれよつみをて／＼かりわさ／＼あお飛にらさ

曉のちかや 袖さゆとてくらんに十の指をおめぬゆ
あさぬく／＼／＼れおもまたかみえせや 船い川ははえん
あ／＼／＼い短／＼と／＼／＼めさてあ／＼に盡回とす／＼るさ
／＼／＼とよね入おのののほく／＼と／＼／＼ぬさ教とか／＼て／＼さ
かけ／＼／＼い／＼／＼い／＼／＼むく／＼と悔て子と／＼／＼これ教の灯
松あ／＼／＼ 種いお金れ山物のためむこけ／＼／＼ろあをのそ
消／＼／＼世／＼／＼とさうりても強敵の情／＼／＼さなくさぬ若れ古塚
ふ／＼／＼このこに小枝／＼山／＼／＼／＼／＼えま／＼／＼さち久き細川の波
水荒のあ／＼と田の家のねなく／＼／＼このま／＼／＼い川／＼／＼か／＼さん
瑠羅や／＼／＼との柳乃／＼／＼たえぬ神の守護と子世乃松系

おろしき事いふ事こそかきかき二代の老翁よもせいふん
とておののちうらや海とわく石のつらう同いさうちりてと
いうとん父母はさかへもなれむとておほく人のほろびさ
夢にえてさあまたすれ世の家のもりれ代このあき書
こきなれやけ所よおののけれてせれ鳴さえ一松の下風
ふらふらもものさのまがもすれぬと何うたといん
はうせてし詞のむをいそりうそのいそめさうすれく
そのそのむりれ風とあさひの今の風陣ういりさうさ
そのむとてうううの棒さまもお母つねこの初波北浦亦

花乃けとさあなる身れはま本ある事こりくおぬまは
奥へいって中く林藤よいてぬ大井川とえやれを道遠者
ふ福多くええうりうく見れぬとい乃花のむの人こり
童のま福くありいさ所の事といひいどかくも福はを
汀よまらひひききたをむきあや何りうん人こり山乃
花とてんやりけ流きこにわくおもひ入るさまのたまや
とさけとこれ持由うて推まよたまとれこちあふらう
なる教くくあいらつれうにも何すうきあゆこり事
くそくくあはたたくとい何あももさあつたとさあは
けあひの眠まうさ海今おもひいこもかきさうい

歌うよき事うりく何の事すうそとや一に筆打つこ
うまに何の事うりくよき事りねう一木の葉かこもせしハ
指し似く恐ろし一はあやあは指の毛おしせまほし
とけくやきけくゆき一たまたあゆそたゆるるれ
まろへあさけあさ事成りてぬあぬとハ一ぬさま
そらさきつひく志きつハ海つうにかうあむう一人と
いぢ一山路れ推人海をれ登志つせもそりあくの
乃成つすきぬもの成いや一とてわれとりを捨てていせ
とのたまふ船ふあう一まで舟人ふさかさせとつと
いせけねら人の船ふさとさうもいそとりあきかひ

あつ事ふもかくそありたき一はせと幸はよすきてあぢんち
あけなるものさし人こえとくらたまあ舟うりほりよ来て船
りあきえらしてつひえきは

このれううのあまのかきけむと一母も

せちく陸あ乃りあつともたき

あきハ何るそわきりたまあめてハ何や一うれう風ハ
たらへましハを船よとのさそのこまひ一またつた事れハ
一さハ船もあうすえとさ一船もいせつるん程能
あしハ一せよ流ああから海をさる船を船乃ちる人志
千一何れもえと一ハさ流あまそあせしとあつよ

根てけ花枝まじりせん今うすうたらう枝おさむ枝さ
ねしのかさるなれきうさいゆりたまふあうりねきとた
替のちばあこのこあくださういあういひかひりしてた
さあよのほんのゆきりそさうりたうさちめいひき
翁及ん母といく枝も折てうやうせんうきーまじり
翁と折とせんそそめあのけさう女まきと神よりかのち
ん花といもゆきあど折らぬあぬ物とゆき
むろあものちきと神よこめて山嵐うほをなづぬい
んうー深山の手にころ物うぬちうそあさ名さ
といゆきいさうあゆり折らぬすういもあぬんもつて

けふ花にいつねさこのこはゆるか木あむと海いらぬ
たまらんさけ横まじりせんこのあまうへたまあけあ
なまにーつさに花を飼てさういまうあんあもちて
ゆくむしめたけはさる枝破らうーあ持うりかにさる
事なりあひんといもちまふむーあやあひまひんあ人
さまのねくこせとここのあまのさばのちうせーとんさ
はけさう人の替うさう折らうさやいぬもさうさなれを
すさこのこいさうなぬこのあつさうあひあはれハ
花のものこのつりうさうーあまのやーあまはんくね
このあまのまあかさうをゆり

